

大阪大学 箕面新キャンパス  
完成イメージ



箕面船場阪大前駅（2024年春開業予定）の南側昇降口方向よりみる。  
大学の3階レベルの南側玄関は、市のデッキ（メインストリート）から直結します。

2020（令和2）年 6月

# 箕面新キャンパス 概要

至 箕面萱野駅

## 教育研究施設 (2021年4月開学)

10階建ての大阪大学外国語学部等の校舎。  
3階レベルでデッキに接続する。

## 学寮 (2021年4月開学)

阪大箕面コ・クリエーションハウス(株)  
が整備・運営する320戸の大阪大学学  
生寮 (PFI事業)。

[凡 例]

- : 整備主体が大阪大学の建物
- : 整備主体が箕面市の建物
- : 整備主体が民間事業者の建物
- : 大阪大学の敷地
- : メインデッキ

至 小野原

## 商業施設ほか

## 歩行者デッキ

2階レベルで新御堂筋を跨ぐ  
デッキ。

## エントランス

駅の地下改札と地下で直結する。また、歩行者  
デッキとは2階レベルを貫いてメインデッキに  
接続する。

## 地下鉄出口

国道423号 (新御堂筋)

箕面船場阪大前駅 (北大阪急行)

至 千里中央駅

## 図書館・生涯学習センター

下層には蔵書71万冊の市と大学の図書館、  
上層には会議室・スタジオ等のある生涯  
学習センター。2階レベルでデッキに接  
続する。大阪大学が運営する。

## 新文化ホール

(株)キョードーファクトリーが運営する、  
1,400席+300席の文化ホール (PFI事業)。

## メインデッキ

駅前広場と併せ、学園祭やイベントで  
使用する予定。デッキ下の地上レベル  
には駐輪場等になる予定 (PFI事業、事  
業者は未定)。



50m

2021年4月。大阪大学創立90周年、  
大阪外国語大学創立100周年を迎えるこの年に

# 箕面新キャンパスが 誕生いたします。



## これからの百年も 大阪に国際人を育てる

箕面キャンパスを  
世界の言語と言語を基底とする地域の  
文化や社会に関する研究の集積拠点にする

大阪大学では、2021年4月に、箕面新キャンパスへの移転が決定しています。「地域に生き世界に伸びる」という大阪大学のモットーのもと、箕面新キャンパスを、「世界の言語」と「言語を基底とする地域の文化や社会」に関する研究の集積拠点とするとともに、世界の言語や文化、社会に関する高度な専門的知識と幅広い学識を身につけたグローバル人材を育成する場とします。また、外国人留学生に対する日本語・日本文化の教育を通して、世界に向けて日本語・日本文化を発信する拠点を形成します。



大阪大学総長 西尾 章治郎



**教育研究施設** (言語文化研究科、外国語学部、日本語日本文化教育センター)

Let Language Be Your Wings to the World

「言葉を通じて世界へはばたく」

100年の歴史と伝統を持つ、世界25言語を教育し、真の国際人を育てる場

65年の歴史と伝統を持つ、世界をリードする日本語・日本文化教育の拠点

(地上10階 延べ面積約25000㎡)

**学寮**

大学の国際競争力を強化させることを目指し、グローバル人材を育成するため、外国人留学生を含む本学学生が共に生活し、学生の居住の場としてだけでなく、課外学習の学びの場として、日常的に異文化交流ができる混住型学寮 (地上12階 320戸ワンルーム型)

**図書館**

学修・研究を支える資料と学びの場に公立図書館の機能をあわせもつ図書館 (地上1～4階 蔵書約710,000冊)

複合公共施設

# グローバルキャンパス 世界と市民を結ぶキャンパス

## 4キャンパスの交流拠点

新御堂筋を中心に、東に吹田キャンパス、西に豊中キャンパス、そして南に中之島キャンパスがT字型に交差する箕面新キャンパスにおいて、各キャンパスの知が融合し、新たな学際領域を創造するとともに、吹田市、豊中市、大阪市そして箕面市の市民交流を活性化させる交流拠点。

新たな知の共創による  
イノベーションの創出  
地域の活性化に貢献

## 日本文化の発信と 世界中の人々の受入と交流

都市型キャンパスの特性を活かして、市の生涯学習センターや文化ホールとの効率的共同利用を図り、世界と地域を結びつける多彩な文化活動を展開。

世界の言語や文化を紹介する  
多彩な行事を市民に開放  
留学生と市民の交流により  
日常の中で異文化体験を実現

## 学生・研究者・企業の 世界進出拠点、 世界の多様な文化圏への マーケティング

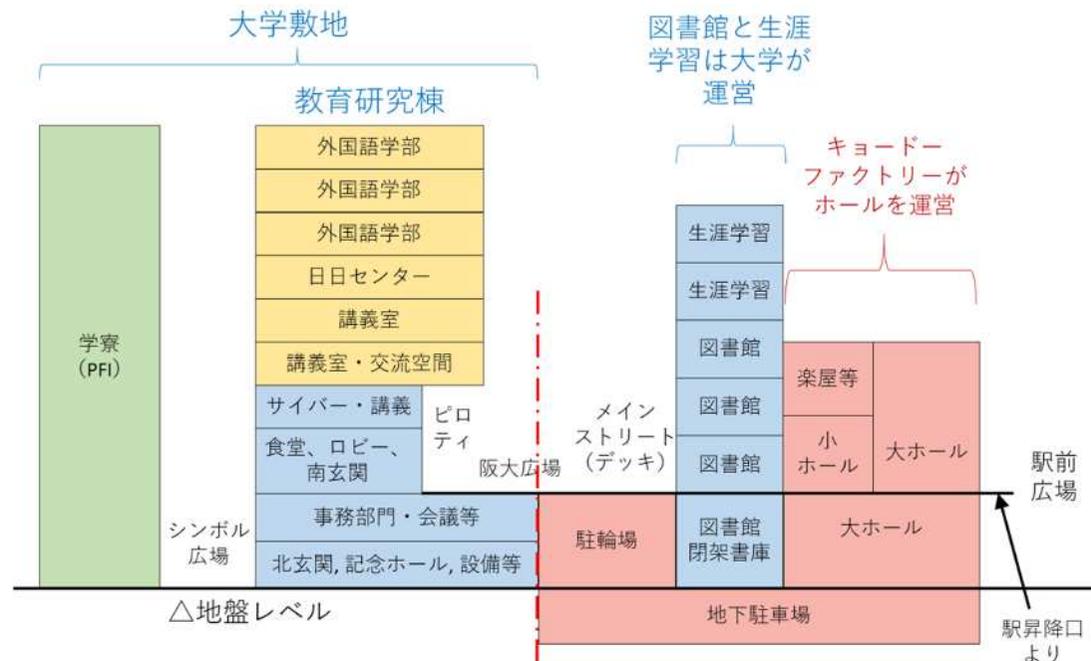
産学連携による技術研究のシーズを多言語多文化にわたって実装していくためのベンチャー育成・実証フィールドとする。

世界進出への足掛かりとなる場  
世界の多様な文化に対する  
マーケティングの機会



阪大広場と市の文化施設  
(右の建物)

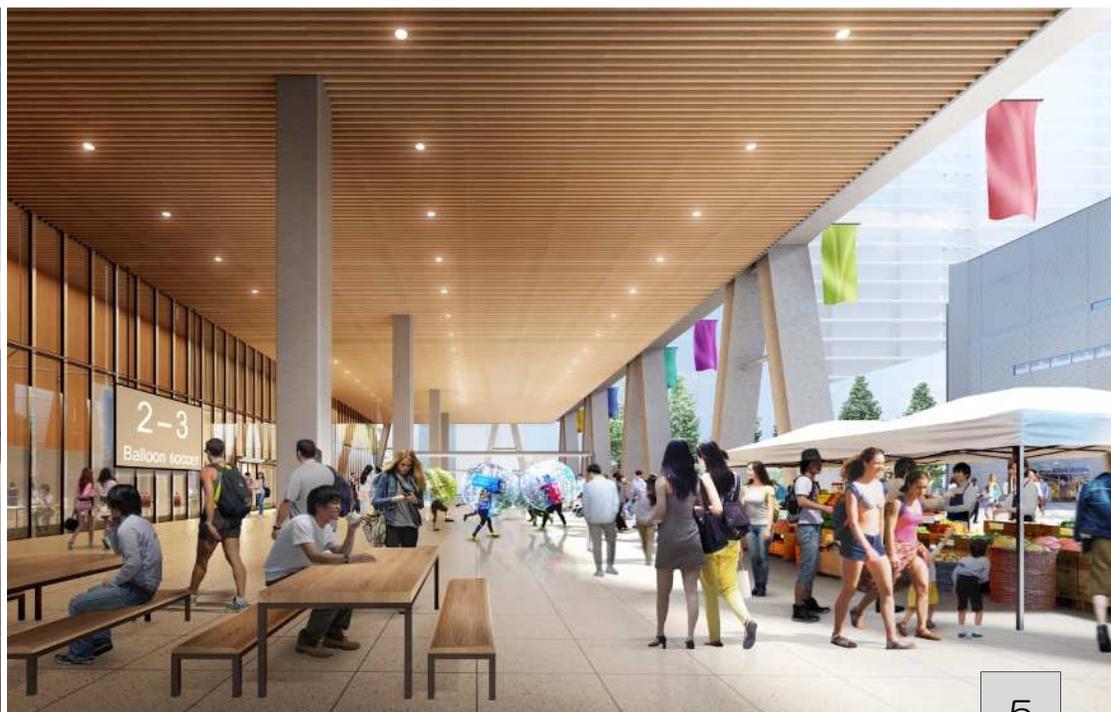
阪大広場は約60m角。市のデッキ事業（PFI管理）部分と、大学敷地範囲に分かれますが、一体的な運用が期待されます。



模式断面図



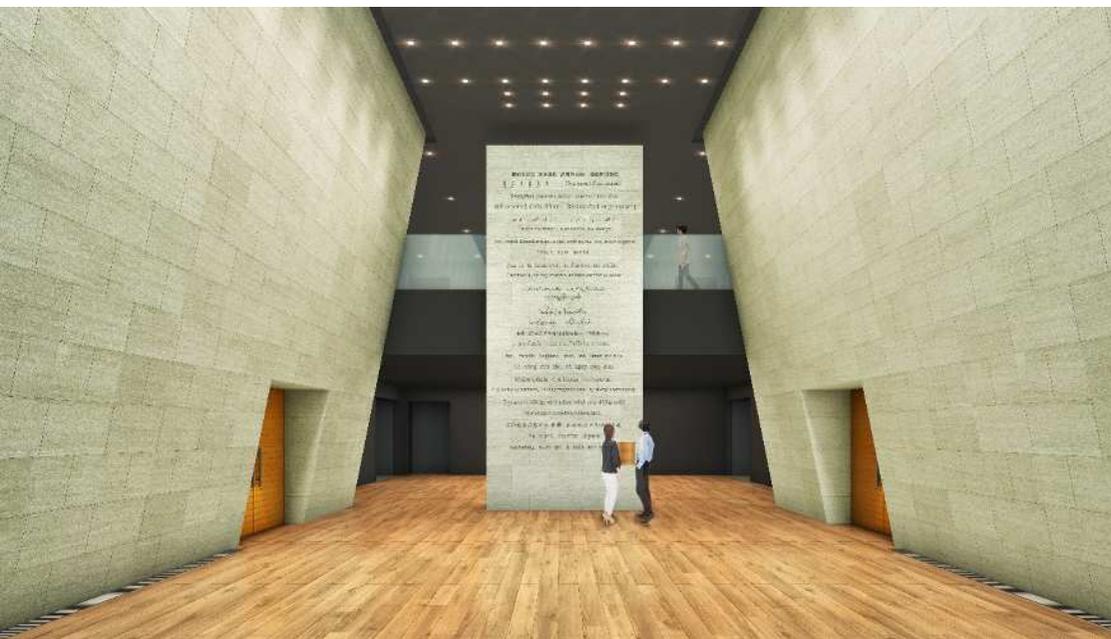
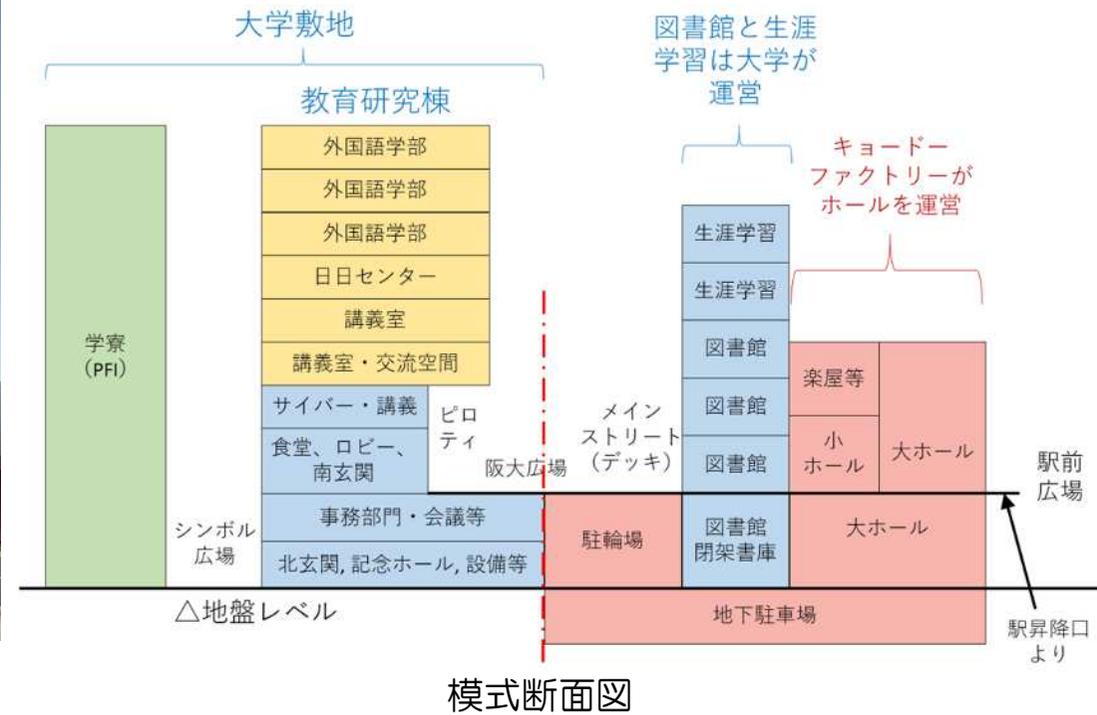
シンボル広場 … 研究講義棟と学寮の間の広場です。北側道路に面しています。



研究講義棟ピロティ；幅50m、奥行き18m（図の左右幅）、高さ8m。阪大広場（図の右側）と直結しています。



北側から見たイメージ。左が学寮、右が研究講義棟、間がシンボル広場です。



1階北側のエントランス。左が記念ホール、右が大講義室。正面は25言語の格言等を刻んだ石板です。



270人収容の大講義室。階段教室状となっています。

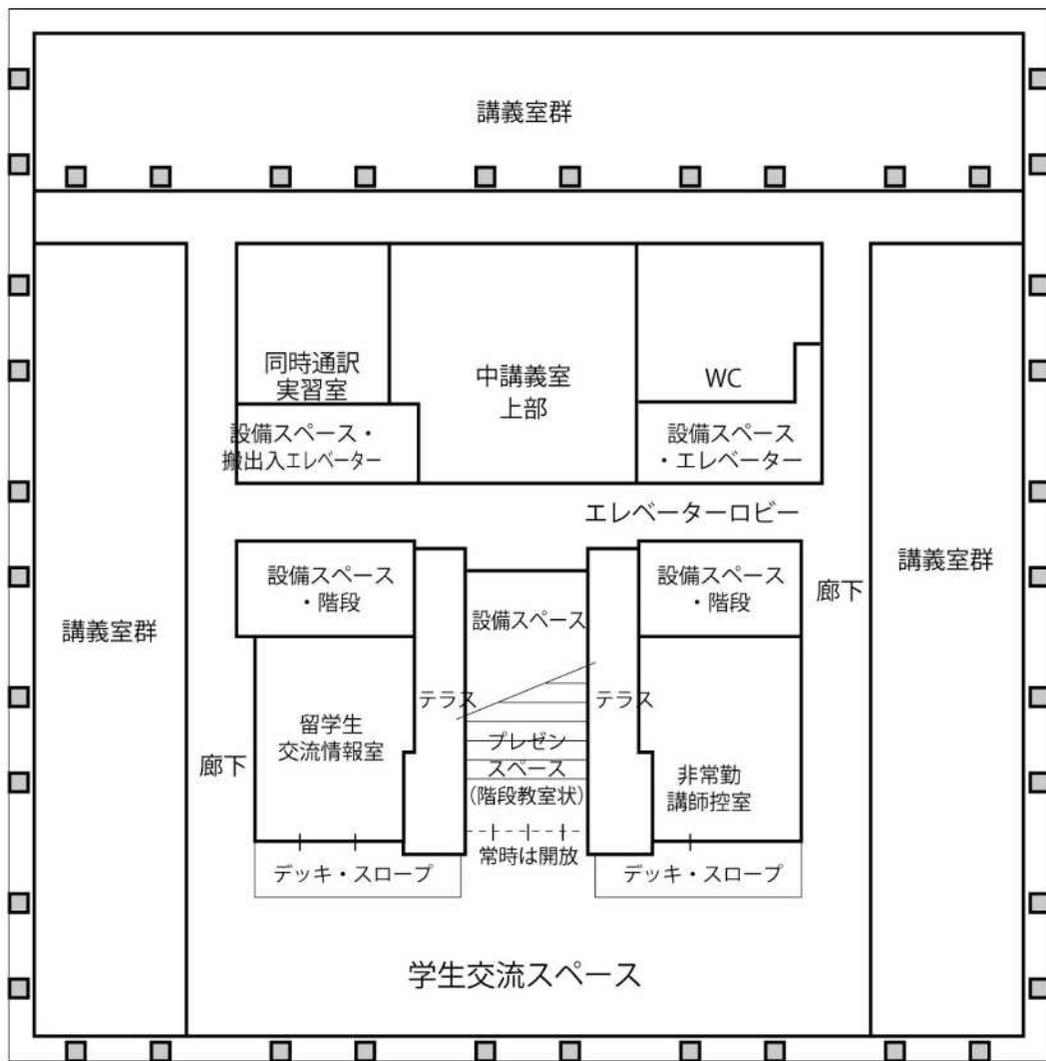


5F 学生交流スペース



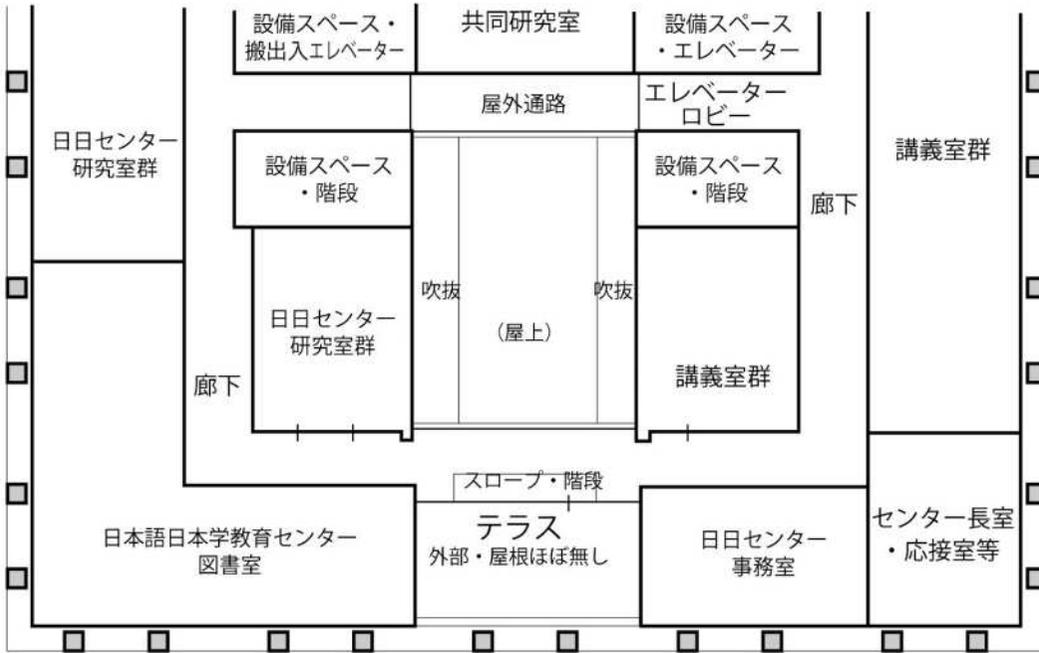
5F、プレゼンスペース  
中央上の奥が、6Fの学生交流ラウンジ。

6F 学生交流ラウンジ  
図の中央奥はプレゼンスペース。  
(5Fと階段状につながる)



(南側は全面、広場を見下ろすことができる)

5F

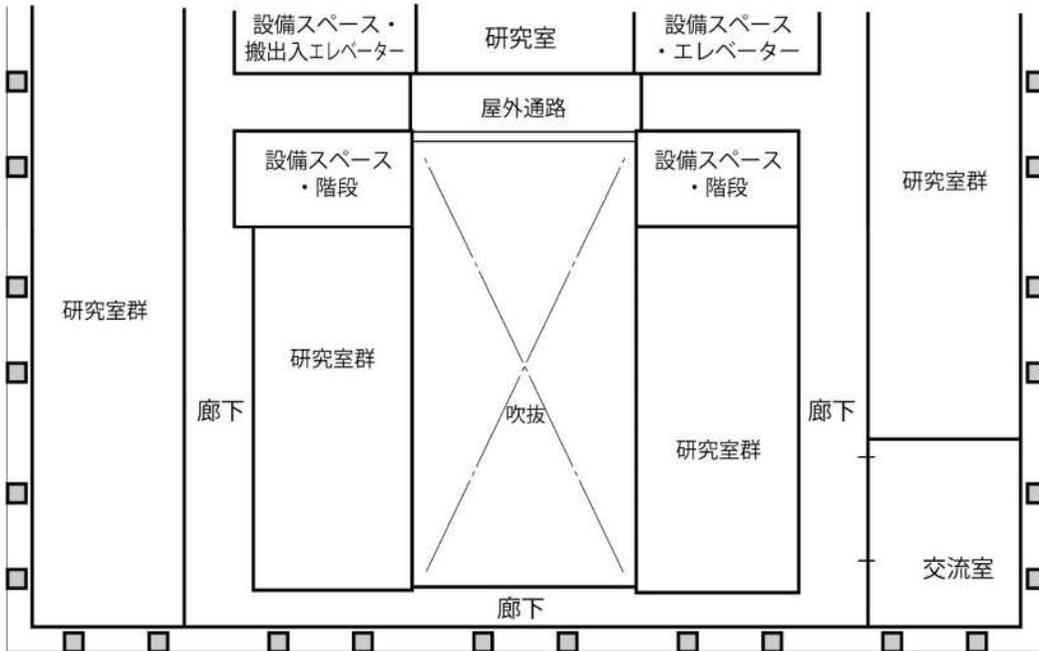


(南側は全面、広場を見下ろすことができる)

7F



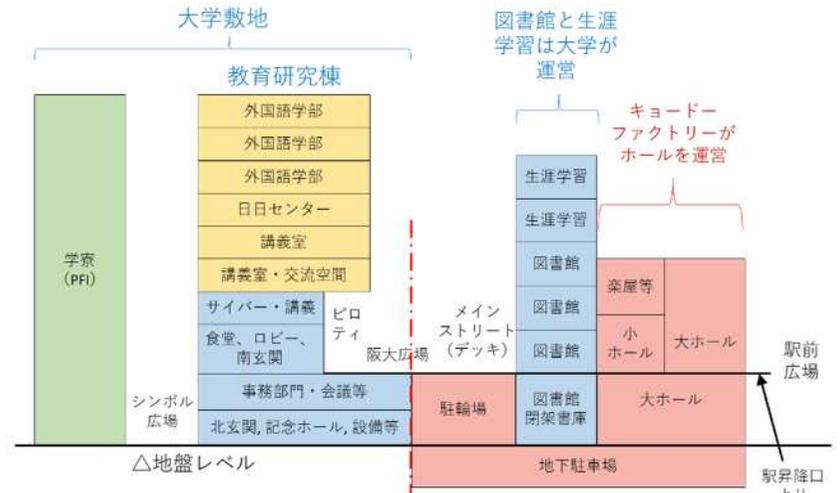
7F テラス  
日本語日本学教育センターの留学生が集います。



(南側は全面、広場を見下ろすことができる)

10F

8~10Fは、外国語学部の研究室が集中しています。  
10Fには、教職員・来客が使用する交流室を設けています。



模式断面図